

元市議会議員である堀晃さん。長年茅野市体育協会に関わりを持つ中で、たびたびリスと行き合う機会がありました。長年運動公園のリスと関わる橋田さんの活動に賛同し、平成29年3月5日に「茅野市ニホンリスの会」を発足しました。

これまで市内には、リスの写真撮影をメインに行う団体、個々にリスの生態を調査する団体、個人的にリスを保護しようとする団体などがそれぞれにリスと関わり、活動を進めていました。活動の中で、運動公園を管理する市に対しても個別に要望をしていましたが、団体ごと知識、考え方が異なるため、市は対応に苦慮していました。そこで窓口を一本化し、運動公園のニホンリスに対する共通の認識を持つて活動を進めるためこの会を発足させました。



茅野市ニホンリスの会
会長 堀 晃さん

ニホンリスを見つめる人



茅野市ニホンリスの会
橋田 利幸さん

写真愛好家として長年運動公園のリスに関わってきた橋田利幸さん。50代後半から始めた写真。初めは運動公園の花などを撮影していましたが、リスと出会い、撮影している内にリスの生態にまで関心が及び、関わりを持つてから今年で10年目となりました。独自にリスの生息数やオングルミの本数の調査を進めてきた橋田さん。今後は会員に対して自分の持つ知識や経験を伝えながらこれからもリスを見つめていきます。

茅野市ニホンリスの会の活動について

茅野市ニホンリスの会の中心メンバーである堀さん、橋田さんにこの会の活動について伺いました。

橋田さん「リスの食糧は足りています。運動公園ができて約40年。当時より餌になる木は増えている。ただ樹木の面積を減らしたときにリスの数も減った。そういうことを考えないといけない。」

餌になる木を植えればリスは増えると考えがちですが、橋田さんの調査ではリスの数はここ数年横ばいです。会の初年度はまず現状の調査。クルミの木とリスの数を確認してから行動を起こすことが大切だと考えています。堀さん「運動公園も有名になって、遠くからもリスを見に来る方が来てくれています。一方でリスの貯食している場所を踏み荒らしてしまう人もいます。」

クルミやどんぐりを持ち帰る人がいますが、リスの食糧なので持ち帰らないでほしい。そういったことも発信していくことも重要であると考えています。

橋田さん「会の初年度は会員に知識を深めてもらうため観察会を開きます。またリスの生息数調査を通じてリスの実態を感じてもらいたいですね。」

40年間持続してきたこの生態系をこれからも変えず持続していくために共通認識を持つことが大切なのです。



小枝でつくった巣。一般的にこの巣が多い。

市との連携を密にリスを見守る

リスが寿命の前に死亡する要因の一つに交通事故があります。茅野市ニホンリスの会の前身「リスの会」ではリスの横断に注意を呼びかける標識や、歩道橋の下にリスが渡ることで「リスの橋」の設置を市に要望。茅野市教育委員会が対策を講じ、効果が表れています。堀さん「運動公園建設から月日が経ち、木が大きくなってきている。運動公園の施設に支障をきたすことがあったとき、その伐採がリスと関わりがあるのか、よく確認をしてほしいとお願いをしています。」

運動公園はリスの住処であると同時に複数の運動施設を兼ね備えた市民の居場所。二つの側面を持ちながら共存できてきたこれまでの歩みを大切に、市と市民団体が連携して運動公園を作っていく必要だと、堀さんは考えています。



リスの交通事故防止に効果をあげた「リスの橋」



母親に運ばれ運ばれる子リス

リスと共にこれからも生きる

現在の運動公園の環境を持続していくことは簡単ではありません。運動公園という森の新陳代謝を促し、自然のサイクルがうまく回っていく必要があります。食糧もクルミばかりではいけない。虫や草花が欠けてもリスにとっては死活問題になり得ます。

橋田さん「50年先の森を描くことは難しい。人間が餌付けすればリスは増えるかもしれないがそれでは意味がない。野生のリスを市民が観察できる公園。そこを残さないとけない。」

堀さん「運動公園という性格がある中で、両立をしていかなければならない。運動公園を利用する人にもリスのことを意識してもらいたいです。」

リスを見つめるお一人の眼差しは、今いるリスだけでなく、リスの将来にまで向けられています。

■ニホンリスの写真提供 橋田利幸さん